

1P126

思春期にある1型糖尿病患者の疾患管理の負担に対する親子の認識と心身の状態に関する検討

松本 宙^{1,2}、小松 祥子^{1,3}、川村 智行¹、柚山 賀彦¹、西川 直子¹、堀田 優子¹¹大阪市立大学 大学院医学研究科²三重大学 大学院医学系研究科³大手前大学 健康栄養学部

【目的】

思春期は、子どもから大人への移り変わりの時期であり、急激な変化が生じる。これに加えて、1型糖尿病患者においては、疾患管理責任が親から子へと移り変わるとともに、心理・社会的要因により血糖コントロールが難しくなる時期でもあり、国際小児・思春期糖尿病学会も心理社会的評価を含んだ包括的な評価およびその支援の必要性を示している。そこで、本研究においては、思春期の1型糖尿病患者の疾患管理に対する親子の認識と心身の状態を明らかにすることを目的に調査研究を実施した。

【方法】

10歳から15歳の1型糖尿病患者とその親を対象に、自記式質問紙調査を実施した。主な調査項目として、対象者の属性、日常の疾患管理の負担に対する認識、小児心身症評価スケール（Questionnaire for triage and assessment with 30 items; QTA30）、糖尿病自己管理行動に対する自己効力感尺度（Self-Efficacy for Diabetes Self-Management; SEDM）を用いた。

【結果】

回答は15組から得られた（回収率75.0%）。疾患管理（食事、インスリン投与、血糖測定、低血糖の対応）の負担に対する親子の認識を比較したところ、いずれの疾患管理の負担においても有意な差は認められず、思春期においては、患者と親が同じような負担を抱きながら疾患管理を行っていることが示された。次に、小児心身症評価スケールの結果を踏まえて、心身の負担が高い群と心身の負担が低い群に分けて比較を行った。その結果、日常の疾患管理における負担に対する認識において有意な差は認められなかったものの、罹患期間、糖尿病自己管理行動に対する自己効力感において有意な差が認められた（それぞれ、 $p<.05$ ）。

【結論】

思春期においては、患者と親が同じような負担を有しながら1型糖尿病の疾患管理を行っていることから、この時期においては、患者のみならずその親をも含めた支援を検討する必要性が示唆された。また、心身の負担感が高い患者は、罹患期間が長く、糖尿病の自己管理行動に対する自己効力感が低いとの特徴が示され、改めて、思春期の患者に対する心身の状態の評価とその支援の必要性が示唆された。

1P127

学校検尿で発見され、確定診断までに時間を要した緩徐進行1型糖尿病の2症例

田嶋 華子¹、高橋 美奈子²、右田 真¹¹日本医科大学武蔵小杉病院 小児科²日本医科大学武蔵小杉病院 看護部

緩徐進行1型糖尿病は、発症時にはケトosisや著しい高血糖を呈さず、自覚症状がほとんどない。そのため、しばしば学校検尿で発見される。学校検尿を契機に発見され、診断までに時間を要した緩徐進行1型糖尿病の2症例を経験したので報告する。

症例1は12歳男子。学校検尿で尿糖3+であり、当院で施行した糖尿病2次検診（食後2時間）で血糖値174mg/dL、HbA1c6.8%、尿糖1+、尿ケトン陰性のため糖尿病疑いと診断した。肥満度32%であり2型糖尿病の家族歴（母方祖父母）があることから、2型糖尿病を第一に考え、食事・運動療法を開始した。生活指導を守ったにもかかわらず、4か月後の定期受診時に随時血糖284 mg/dL、HbA1c10.7%、尿糖4+、尿ケトン陰性と増悪を認めたため、抗GAD抗体を測定したところ陽性（19.0U/ml）であり、緩徐進行1型糖尿病と診断した。診断後、入院しインスリン導入を開始した。症例2は11歳女子。学校検尿で尿糖2+であり、当院で施行した糖尿病2次検診（食後2時間）で血糖値128 mg/dL、HbA1c5.6%、尿糖一、尿ケトン陰性であり腎性糖尿と診断し、翌年の学校検尿で経過をみることにした。翌年の学校検尿で尿糖4+であったため当院を緊急受診した。緊急受診の1か月ほど前より多飲多尿、体重減少を認めていた。随時血糖553 mg/dL、HbA1c14.2%、尿糖4+、尿ケトン陰性、抗GAD抗体陽性（93.9U/ml）であり、前年からの経過より緩徐進行1型糖尿病と診断した。入院しインスリン導入を開始した。

緩徐進行1型糖尿病では、早期からインスリン治療を開始することにより、インスリン分泌能の低下を抑制する可能性が示されている。今回の症例のように、2型糖尿病を疑い生活改善を行ってもデータ改善を認めなかったり、腎性糖尿の診断であっても途中から多飲多尿などの高血糖症状が出現した場合は、緩徐進行1型糖尿病の可能性を考え、データの再検や膵島関連自己抗体（抗GAD抗体、抗IA-2抗体）の測定を考慮することが望ましい。